

国際貿易理論

市田 敏啓 准教授

1 担当教員の専門分野(研究領域)・現在の研究テーマ

教員は国際貿易の経済学理論を研究している。とくに、国際貿易と労働市場の関連（多次元スキルがある労働者の転職と貿易自由化の影響、グローバル化の進展と非正規雇用との関連、人的資本投資と貿易など）や国際貿易と特許制度などのトピックについて数学モデルを駆使した経済理論でアプローチしている。基本的にはミクロ経済学や産業組織論の理論の応用分野としての国際貿易の研究である。

2 指導方針

博士課程は基本的に修士課程の学生の中で優秀だったものだけがゼミに残ることができる。本当に優秀な者は欧米の大学院博士課程に留学させたいと思っているので、博士課程を卒業したら社会人になりたいと考えるものは本研究指導を受けるべきではない。本ゼミの博士課程は経済学の研究者になりたいもの、将来大学の教員になりたいものだけが所属すべきである。

3 学生に対する要望・その他

現在の商学研究科のカリキュラムでは経済学者をゼロから教育できるだけのコアカリキュラムやリソースが足りていないので、経済学研究科の授業やほかの大学の授業、留学などを駆使して基礎は学生自らが身につける必要がある。自主的に大学院レベルの上級ミクロ、上級マクロ、計量経済学、経済数学などの勉強ができる人たちに来てほしい。